

第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

作品名:「紅と白の世界の中で」

テーマ:「主人公のことが大好きなのに、素直になれない美少女」

キャラクター

35

ストーリー

40

テーマ(設定)

35

文章力

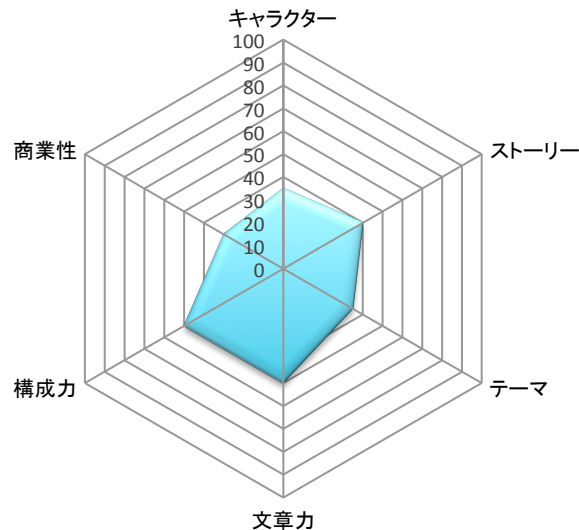
50

構成力

50

商業性

30



・見受けられる基礎的な問題点

- ・キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
- ・キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
- ・キャラクターの行動に動機がなく、物語がご都合展開になってしまっている
- ・物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
- ・物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がり欠ける
- ・テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
- ・物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている
- ・意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
- ・プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
- ・時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
- ・物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
- ・文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
- ・伏線的な要素がなさすぎて驚きに欠ける
- ・笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
- ・「この作品の最大の魅力はこれ!」というものがない

・総評 (もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話)

・光樹一人称と結菜一人称間における視点移動という手法はとても前衛的で面白いと感じた。しかし今回は面白さよりもそれによって生じる「分かりにくさ」が勝ってしまっている。まずは視点移動を行わず、誰か一人(この作品だと光樹ということになるか?)の目線から物語の全貌を描き出す手法をマスターして、結菜の心情も光樹の目線からだけで読者に理解させることができる程度の表現力を身につけるべきだと感じる。

・キャラクターがどれも普通過ぎて、もう少しオリジナル性が欲しかった。例えばいっそもみじの絵は光樹自身が何十回という書き直しを経て自分でかきあげたといった設定にしておけば、自然と個性の演出ができたのではないかと感じる。

・逆に、オリジナル性がないということ以外に関しては、ほとんど不備がない。構成は綺麗にまとまっており、文章も非常に読み易く、シンプルに感動できる点は非常に魅力的な作品であったと感じた。あと少し何かこの作品にしかない尖った特徴があれば商業的にも成功が見込める作品となりそう。

合計加点ポイント 0

総得点: 240 / 600

B方式総合得点: 9600 点